

令和 3 年度
決 算 報 告 書

第 1 0 期事業年度

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

令和3年度決算報告書

(単位:百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	1,765	1,756	△ 9	(注1)
自己収入	308	342	34	
財産売払収入	7	5	△ 2	(注2)
農業大学校収入	8	5	△ 3	(注3)
依頼試験手数料収入	1	0	△ 1	
受託研究等収入	273	277	4	(注4)
その他収入	19	55	36	(注5)
前中期目標等期間繰越積立金取崩	0	34	34	(注6)
合 計	2,073	2,132	59	
支出				
業務費	520	586	66	
研究経費	247	310	63	(注7)
受託研究等経費	273	276	3	(注8)
一般管理費	223	218	△ 5	(注9)
人件費	1,330	1,263	△ 67	(注10)
合 計	2,073	2,067	△ 6	

(注1) 退職手当の支給額及び支給人数等が確定したことに伴い、特定運営費交付金収入が予算額に比して9百万円減少しました。

(注2) 生産物等売払収入が見込みを下回ったため、予算額に比して2百万円減少しました。

(注3) 農業大学校において授業料の減免したことなどにより、予算額に比して3百万円減少しました。

(注4) 契約期間が年度を跨ぐ受託研究等業務は、次年度以降の業務終了時に収入を計上するため収入額が減少したものの、令和2年度以前から年度を跨ぐ契約期間になっていた受託研究等業務のうち当年度に業務が終了したものは、当年度収入に計上したことなどにより、予算額に比して4百万円増加しました。

(注5) 受託研究等収入のうち補助金等として収入したものを、その他収入に計上したことに伴い、予算額に比して32百万円増加しました。このほか、雑収入(消費税の還付金相当額等)があったため、予算額に比して4百万円増加しました。

(注6) 研究力・技術力の向上等調査研究体制の強化のための前中期目標等期間繰越積立金を取り崩したことに伴い、予算額に比して34百万円増加しました。

(注7) 前中期目標等期間繰越積立金を財源とした経費や補助金等収入を財源とした経費を研究経費に計上したことに伴い、予算額に比して63百万円増加しました。

(注8) 契約期間が年度を跨ぐ受託研究等業務は、次年度以降の業務終了時に経費を計上するため支出額が減少したものの、令和2年度以前から年度を跨ぐ契約期間になっていた受託研究等業務のうち当年度に業務が終了したものは、当年度支出に計上したことなどにより、予算額に比して3百万円増加しました。

(注9) 電力調達手法の見直しや外部資金の獲得努力で得た間接経費を活用し、33百万円の経費節減を実現したほか、生物多様性センターの施設管理業務の見直しを図ったことで令和3年度は6百万円の経費削減を実現したものの、老朽化した施設等の整備を早期に対応したため、予算額に比して最終的に5百万円減少しました。

(注10) 退職手当等の支給額が確定したことや期末手当の年間支給月数引き下げを実施したほか、業務運営体制の変更を図り、人件費の節減に努めたことにより、予算額に比して67百万円減少しました。